

施策マネジメントシート ～平成30年度の振り返りから2019年度の取組へ～

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(5月中に記入)

長期振興計画 の位置づけ	まちづくり分野	ひと分野	担当課		社会教育課	
	政策分野	子育て・教育	課長名		中里千秋	
	施策	16 社会教育の充実	重点施策の該当		H30	○ 2019 -
施策の目的	対象	市民	意図	生涯にわたって学び続け、生きがいに満ちた豊かな生活を送ることができる		

施策の目標指標

目標指標(単位)	長振策定時	指標の推移				最終目標値
	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	2019年度目標値	2020年度目標値	2021年度目標値
今後の学習活動への取り組み意欲(%)	52.7	57.1	53.5 (60.0)	62.0	64.0	66.0

市民アンケート調査の結果(施策に関する重要度と満足度)

平成29年度実績		平成30年度実績		2019年度実績		2020年度実績		2021年度実績	
重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)
80.5	29.1	81.8	32.3						
重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI
77.8	16.0	81.1	18.4						

施策推進のための取組の成果を測る指標

基本事業名	関連 戦略 No.	成果指標(単位)	長振策定時	指標の推移				最終目標値
			28年度実績	29年度実績	30年度実績	2019年度目標値	2020年度目標値	2021年度目標値
生涯学習機会の充実		市民講座受講生の満足度(%)	-	88.0	87.9 (77.5)	80.0	82.5	85.0
生涯学習機会の充実		市民講座修了生(7割出席)の割合(%)	62.0	69.8	53.6 (67.2)	69.8	72.4	75.0
社会教育団体の育成・支援		指導者等研修会の参加者数(人)	41	29	24 (43)	46	50	50
社会教育団体の育成・支援		各種団体や学級等の加入者数(人)	3,025	2,904	3,190 (3,035)	3,040	3,045	3,050
社会教育環境の充実		自己啓発のための講座、研修等への参加(%)	24.4	25.2	23.5 (30)	33.0	37.0	40.0
青少年の健全育成	9-21	補導件数(件)	12	10	3 (7)	5	3	0
青少年の健全育成	9-21	合同補導活動参加者数(人)	59	59	56 (59)	59	60	60
青少年の健全育成	9-21	中1ギャップ解消事業参加率(%)	24.2	17.9	8.1 (38.5)	-	-	-
社会教育環境の充実		施設利用満足度(%)	-	52.8	46.6 (48.8)	52.5	56.3	60.0

②-1 振り返り(Check)

施策を取り巻く環境変化・市民ニーズ等への対応	
・社会教育関係団体のうち特に、女性団体及び高齢者団体の会員減少により運営が困難な状況であり、組織強化が厳しい現状がある。 ・市民講座の受講者は多いものの、受講者の固定化や指導者の高齢化等が課題となっている。学習メニューの研究調査のためのアンケートを実施していく。また、後継者や指導者の発掘が難しく、各種研修会への参加要請をするものの受講者が少ない傾向にある。 ・青少年育成については、全国的にSNS利活用に関する問題が山積していることから、本市においても関係団体と連携して環境浄化に努めながら非行防止への取り組みを進めるとともに、引き続き体験型学習活動を通じた健全育成を図っていく。 ・社会教育施設の老朽化が進んでいることから、計画的な整備、改修の検討を行っていく。	
施策の成果(貢献度の高い事業等)と現状・課題	
成果	・市民講座開設事業は、平成30年度は12講座を開設した。延べ196人の市民が受講し、そのうち延べ105人が7割以上の出席により修了することができた。対前年比では横ばいとなっている。 ・ふるさとまなび～隊開催事業は、小学校3年生以上の児童を対象に、異年齢との自然や文化を活かした体験学習を実施している。平成30年度からは毎月の活動ごとに会員を募集したことで、参加の機会や自由度が増したと考えられ、小規模校からの参加や初めての参加者が例年以上に増えた。児童一人ひとりの積極的なコミュニケーションが図られ仲間づくりができています。 ・図書館運営事業は、平成30年4月から情報検索システムの本格稼働を行い、併せて館内書架のレイアウトを見直しリニューアルを行った。自宅のパソコンやスマートフォン等での蔵書検索が容易になったこと、更にはインターネットによる蔵書の予約サービスも開始したことで、利用者の利便性が向上している。対前年比で入館者数及び利用者数、利用冊数ともに増となっている。

施策マネジメントシート ～平成30年度の振り返りから2019年度の取組へ～

現状・課題	・市民講座の受講生は多いが、受講生の固定化や指導者の高齢化等が課題となっている。学習ニーズを把握するため研究調査と社会教育指導者の養成のための研修の場を提供していく。また、市民講座から自主講座への移行を促していく。 ・ふるさとまなび～隊開催事業は、令和元年度から市内複式小学校中1ギャップ解消事業を当事業に統合する。ふるさとまなび～隊開催事業では、社会教育・青少年健全育成の面からのアプローチとして宿泊体験型事業を実施していて、また学校教育の面からのアプローチとして集合学習を実施していることから統合することに問題ないと判断した。平成30年度から毎月活動ごとに会員を募集したことで、選択の自由度が増し、小規模校からの参加者などが例年以上に増えた実績があることから、現状募集を維持していく。 ・図書館運営事業は、より多くの市民が本に親しむため移動図書館車、読み聞かせ、ブックコンテナ配本などこれまで同様展開していくとともに、学校図書館との連携を図りながら独自のイベントなど検討する。
今後の方向性	今後の方向性の根拠等(他施策との連携、総合戦略との関連、環境変化等を踏まえ記入)
拡大・充実	・生涯各時期に応じた学習メニューを把握するためアンケートを実施していく。また自主講座への移行について積極的に支援していく。 ・社会教育関係団体の現状やニーズを把握しながら活動を支援するとともに団体間の親睦と相互連携を推進する。併せて、研修会等への参加要請を行いながら指導者や後継者の育成に努める。 ・ふるさとまなび～隊開催事業(年間計画10回実施)は、平成30年度からは毎月の活動ごとに会員を募集したことで、参加の機会や自由度が増したと考えられ、小規模校からの参加や初めての参加者が例年以上に増えたことから現状の募集体制を維持する。異年齢による自然体験や宿泊体験等を通して豊かな心とたくましく生きる力を育む。 ・青少年のSNS利活用の実態と今後の対応策については、専門家を招き講演会を実施し、保護者への情報提供を行う。 ・令和元年度に社会教育施設の長寿命化計画を策定するので、安全性・緊急性に配慮しながら改修等優先度を決定し、改修に取り組む。
②-2 政策部会による振り返り(Check) (6月中に記入)	
今後の方向性	政策部会で出された施策に対する意見等(将来像の実現に向けた課題や優先度、市民との協働のあり方など)
拡大・充実	・施策担当課が記載する方向性のとおり。